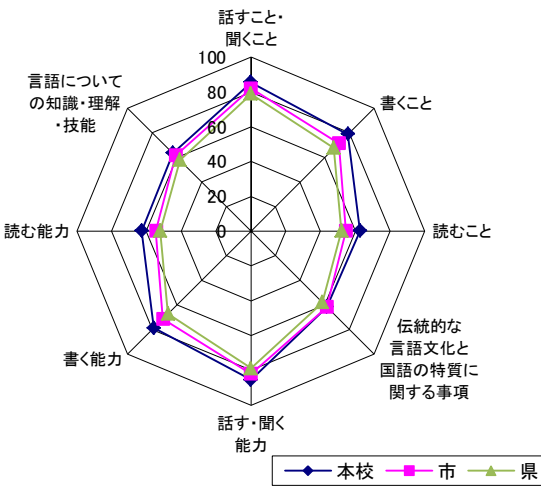


宇都宮市立平石北小学校第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.5	82.0	78.9
	書くこと	78.8	71.5	67.4
	読むこと	62.8	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.7	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	85.5	82.0	78.9
	書く能力	78.8	71.5	67.4
	読む能力	62.8	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	63.3	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・市の平均正答率を3.5ポイント上回っている。聞き取りはよくできているが、自分の考えをみんなの前で発表することには消極的である。	・話の要点を考えながら、話し手の意図を読み取ることができるようになる。 ・友達の意見を聞くときは、自分の考えと比較しながら同じ点や相違点について考えながら話を聞くように指導する。 ・意図的に指名しながら発表させることにより、発表に慣れさせ、進んで発言ができるようになる。
書くこと	・市の平均正答率を7.3ポイント上回っている。決められた条件で作文を書くことはある程度できるが、原稿用紙の使い方や会話文の書き方が正確にできないことがある。	・日記などを通して、継続的に作文指導を行う。「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」など、自分の考えを正確に伝えるための書き方を確実に身に付けさせる。
読むこと	・市の平均正答率を8.2ポイント上回っている。物語文において場面の様子などは正確に読み取ることができたが、説明文の読み取りでは記述に即して筆者の意図を正しく読み取ることが苦手である。	・説明文の読み取りにおいては、キーセンテンスや重要語句などに注意して作者の意図を考えながら内容を正確に読み取るように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市の平均正答率と同じ値である。慣用句の使い方や修飾語については市の平均正答率をやや上回っているが、漢字の書き取りを苦手としている。	・漢字練習に継続的に取り組ませるとともに、ミニテストを定期的の実施して習熟度を高めていく。 ・作文など、文章を書くときは習った漢字は必ず使うように指導する。